

令和2年度第2回伊勢志摩定住自立圏共生ビジョン懇談会 結果概要

◆日時 令和2年12月3日(木) 19:30~20:45

◆会場 伊勢市役所本館3階 委員会室

◆出席委員

中西 文則委員、西山 敦委員、宮崎 吉博委員、齋藤 平委員、川上 貢司委員、酒徳 雅明委員、三村 和也委員、世古 晃文委員、磯和 範好委員、北山 勝彦委員、山北 佳宏委員、山添みゆき委員

◆欠席委員

板井 正斉委員、三浦 徹委員、西村 純一委員、田岡 悟委員、森下 清委員

◆出席職員

情報戦略局長、情報戦略局次長、企画調整課長、企画調整課係長2名、同課主事、職員課長、市民交流課副参事、健康課副参事、高齢者支援課長、子育て応援課長、こども発達支援室長、商工労政課長、農林水産課長、観光誘客課長、観光振興課長、都市整備部次長、交通政策課長、社会教育課長、教育研究所長
志摩市職員、度会町職員

◆議事概要

1 事務局から新規委員の紹介

川上 貢司委員、磯和 範好委員の新規委員を紹介

2 事項1「伊勢志摩定住自立圏の推進体制」について、新たな委員もみえるため、資料1に基づき、改めて推進体制を事務局から説明

3 事項2「第2次伊勢志摩定住自立圏共生ビジョン各取組の進捗について」を事務局から説明

(1) 資料2に基づき、第2次共生ビジョンの進捗状況(R2.9末時点)報告

・実施スケジュール・具体的な内容の進捗状況の報告

「A:順調」「B:遅れている」「C:進んでいない」の3段階による伊勢市担当課の自己評価

・50件の具体的内容中、35件が「A.順調」(70%)、7件が「B.遅れている」(14%)、8件が「C.進んでいない」(16%)であった。

・進捗状況が「B.遅れている」または「C.進んでいない」事業の現況やこれらの取組を当該記載ページの「今後の方向性」のとおり進めている旨を説明。

(2) 取組の進捗について報告

資料3「伊勢市児童発達支援センターについて」により、取組事項の進捗状況について報告

(3) 委員意見・質問

なし

4 圏域の現況や課題等に係る意見・質問等

【委員意見・質問等】

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により十分な医療の提供が出来ていない状況であると感じる。休日・夜間応急診療所について受診者が減少しているとのことであるが、適正な医療受診がされているのか憂慮している。冬に向け感染症の流行を危惧しており、各々がマナーを守ることで、地域全体で乗り切っていくべきと考える。
- ・金融機関として、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた事業者を支援しているが、国等の様々な支援策の利用で危機的な状況の事業者はそう多くはない印象である。今はGOTO事業等の影響で好調なところもあるが、厳しい状況となってきた折には早めに相談していただくよう呼びかけている。
- ・農業においても新型コロナウイルス感染症によるイベント中止の影響があり、社会活動が動いてこないと回復は難しい。特に米は3割が業務用であり影響が大きい。オリンピックに向けて動いている部分もあり、先行きが不透明である。地域産品の輸出についても難しい状況である。
- ・公共交通機関も厳しい状況であるが、全車両抗菌・抗ウイルスコートを行う等、新型コロナウイルス感染症対策を講じ、安心してご利用いただけるよう努めている。
- ・伊勢市児童発達支援センターについて、圏域内の各世帯へ周知を図っていただきたい。福祉は相談機能の充実が要であるため、「待つ相談」ではなく、「外へ出ていく相談」を行っていただきたい。「出ていく相談」が難しいということであれば、このような相談機関があるということの情報発信を徹底して行っていただきたい。
- ・圏域内でもヘルパーが不足しており、実施したいサービスがあっても人員不足で出来ない状況がある。南部地域に養成機関がないため、圏域全体で人材育成に力を入れていただきたい。
- ・インバウンドの受入として体験民宿を実施していたが、2月以降予約がほぼゼロの状態となった。少しずつ回復してきているものの、以前のようにはない。ファムトリップの依頼もいただいていたり、新しい体験プログラムの開発等を行い、回復を図っている。県内で唯一図書館がない自治体であり、設置を希望する声が上がっている。
- ・秋口から持続化給付金の申請件数が再度増えてきている。新型コロナウイルス感染症の感染拡大が新茶の時期と重なり、影響が大きく出た。新規創業者が少ないため、セミナーを開催したところである。高齢化が進む中、医療環境にも

不安があり、圏域内での連携した取組の必要性を感じる。

- 宅地造成で若い世代が増えている一方で高齢化も進み、空家が目立ってきている。創業セミナーを開催したところ盛況であり、空家を活用したチャレンジショップを行う予定もある。玉城町観光協会が立ち上がる予定で、観光振興に力を入れていく。宮川架橋の早期実現を望む。
- 来年度開催予定の太平洋・島サミットに向け、おもてなしの準備を進めており、この地域のさらなる知名度向上につなげたいと考えている。「鳥獣被害防止対策」について、13 ページの進捗状況に「順調」と記載されているが、圏域内では実感が得られていない。狩猟免許取得の後押し等の支援策に圏域で一体となって取り組んでいただきたい。
- 観光業について、7～8割程度回復してきたところであったが、GOTO 事業の除外対象地域が発表されたことによりキャンセルが相次いでいる。観光客の受け入れについては不安も伴い、特に離島については敏感になっているようである。新型コロナウイルス感染症対策の各種支援策の利用にあたってはIT弱者が困っている状況がある。
- 新型コロナウイルス感染症による差別・偏見について、一時期と比べると改善してきてはいるが、引き続き啓発を行っていく。
- 学内における新型コロナウイルス感染症の感染拡大を阻止するため、寮生に帰省の自粛を呼びかけたりするなど様々な措置を講じている。学外での活動についても状況に合わせて判断している。
- 圏域全体がよい方向へ進むようにビジョンに記載の取組について積極的に進めていただきたい。